



令和6年12月17日

住宅火災による死者が急増中 ～過去10年で最多～

令和6年11月中に発生した住宅火災による死者は13人に上り、昭和63年以來の36年ぶりとなる被害となりました。

住宅火災による年間の死者も72名になり、これは、過去10年で最多の令和元年（令和元年12月15日時点で71名・年間83名）を超えています。

火災多発期といわれる12月から3月は、ストーブ火災による死者が急増します。特に令和5年のストーブ火災の死者9名は、全て電気ストーブによるものでした。令和6年中のストーブ火災でも5名中3名が電気ストーブ火災でした。

また、「たばこ」を出火原因とする住宅火災で最も多くの方が亡くられています。（令和5年中は「たばこ」が14人、次いで「ストーブ」が9人）

今年亡くなられた方の概ね2人に1人（34人/72人）は住宅用火災警報器が付いていない又は鳴ったことが確認されない状況でした。

東京消防庁では、「住宅火災による死者発生防止緊急対策推進本部」を設置し、出火防止対策と火災を早期に発見できる住宅用火災警報器と火災の被害を抑える住宅用消火器等の設置・維持管理を重点に呼びかけています。

※令和6年中の数値は令和6年12月15日現在の速報値

- 1 住宅火災による死者の発生状況及び出火原因について（別添え1・別添え2）
 - (1) 火災多発期に増加する、死者の発生につながったストーブを出火原因とする住宅火災のうち、約8割が電気ストーブによる火災です。死者につながった電気ストーブ火災の約8割は可燃物が接触、落下することにより発生しています。
 - (2) たばこ火災により亡くなった方の約6割は高齢者です。死者が発生したたばこ火災の約7割は火種が落下することにより亡くなっています。
- 2 出火防止対策について（別添え3）

近年、死者が発生した住宅火災の主な出火原因は「たばこ」「ストーブ」「こんろ」「コード」です。火の出る場所を知り、出火防止対策をとりましょう。
- 3 10年交換 住宅用火災警報器（別添え4）

住宅用火災警報器は、熱や煙を感知し、警報音などで火災の発生を知らせてくれ

ます。設置をすることで、火災にいち早く気づき、速やかな通報や消火、避難が可能になりますので、設置をしましょう。

なお、設置から10年を経過すると電池切れや機器の劣化で、いざという時に鳴らない可能性があるため、定期的に作動点検を行い、設置から10年を目安に本体交換をしましょう。

4 持っていますか？マイ消火器（別添え5）

消火器による初期消火は、火災の被害軽減や抑制に効果的です。消火器具（消火器及び簡易消火用具）の設置が義務付けられた防火対象物の火災において、消火器具を使用した場合の奏効率は、73.7%と高い効果が出ています。

また、消火器なら、電気や油の火災にも対応することが出来ます。

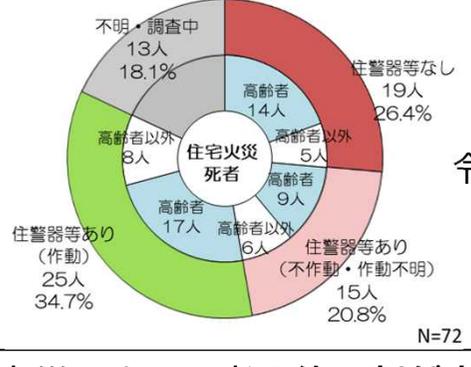
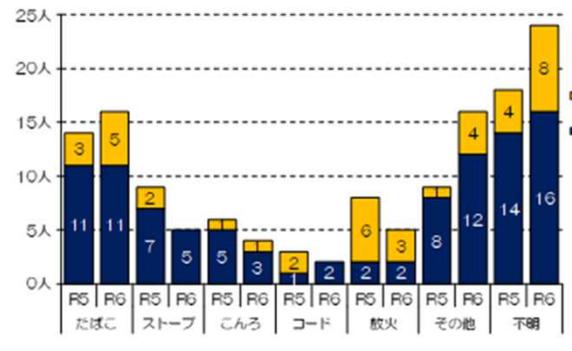
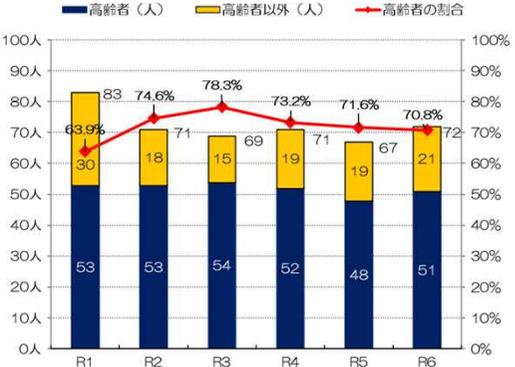
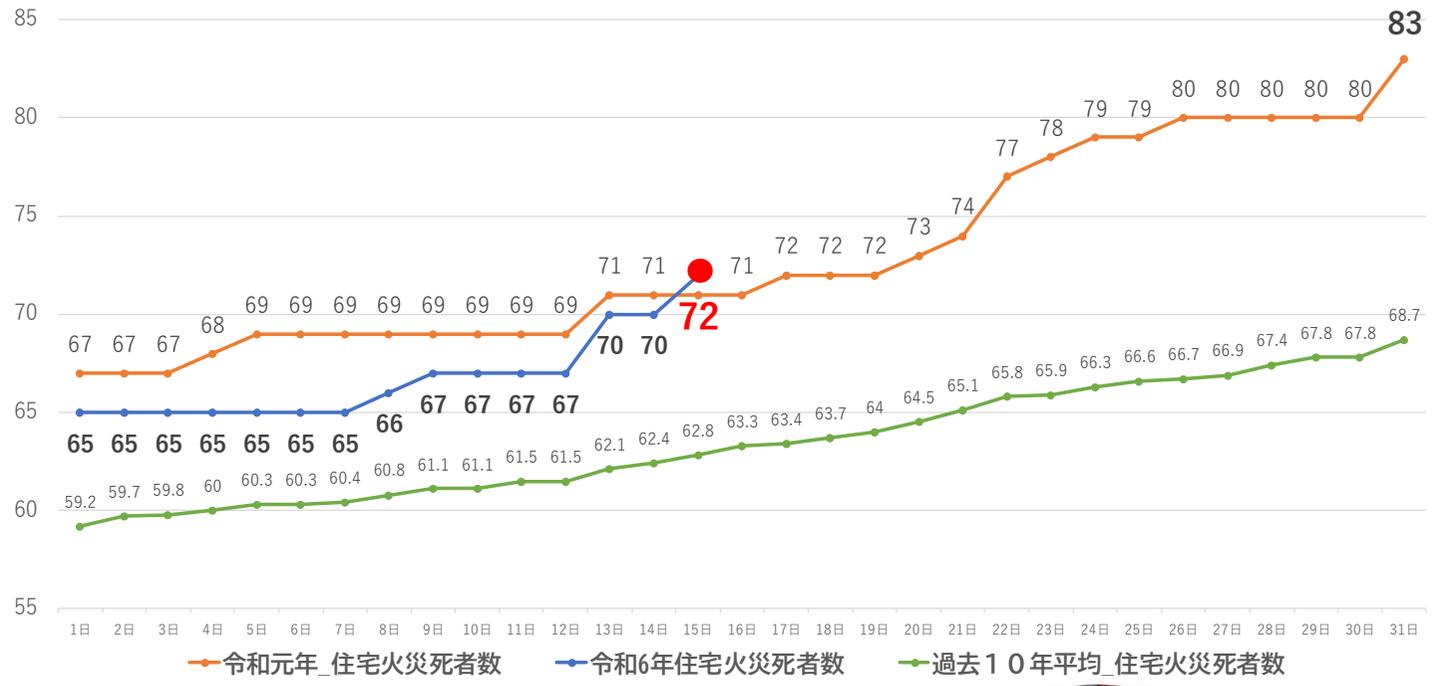
万が一に備え、ご自宅内に消火器を備えましょう。

※ 住宅火災による死者とは、寄宿舍、下宿、共同住宅、専用住宅及び長屋の用に供する建築物又はその部分から出火した火災により死亡した者（自損により死亡したものを除く。）をいう。

問合せ先

東京消防庁（代）	電話 3212-2111
防災安全課生活安全係	内線 4195
広報課報道係	内線 2345～2350

別添え1 **令和6年中の住宅火災の死者発生状況** ※令和6年は令和6年12月15日現在 (防災安全課調べ速報値)



・住宅火災による死者の約7割が高齢者
 ・約2人に1人が、警報器が付いていない、鳴動が確認されない

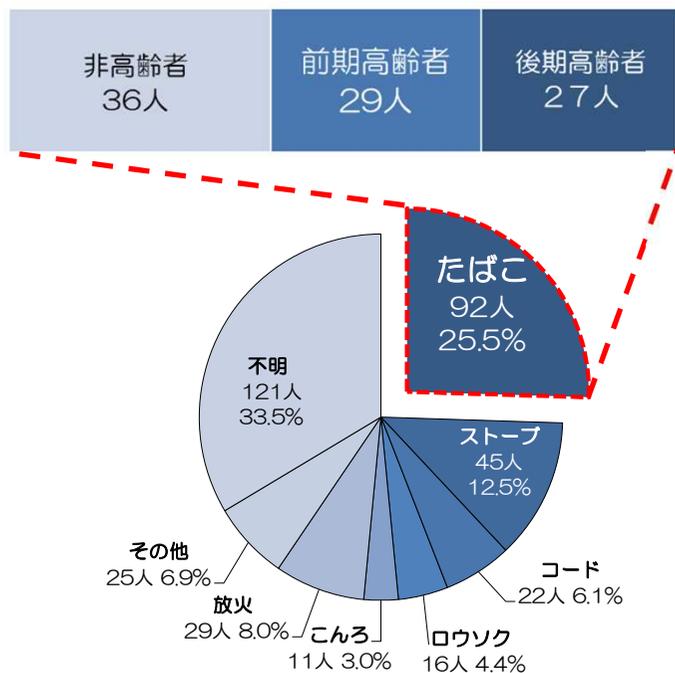
令和元年以降の住宅火災による死者数と高齢者の割合

住宅火災による死者 (出火原因別)

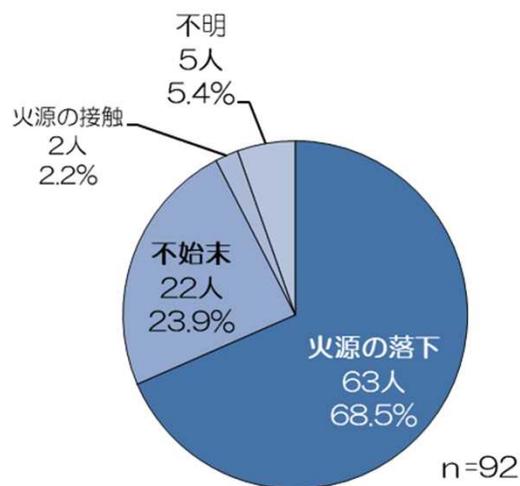
令和6年中の住宅火災による死者 (住警器等設置有無別)

別添え 2 住宅火災の出火原因①

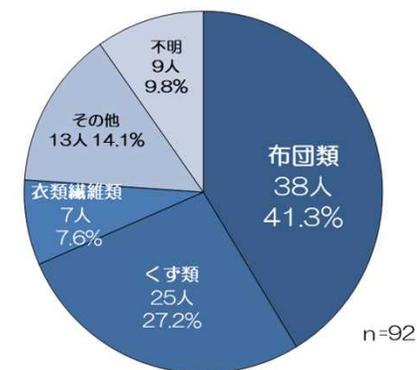
出火原因別死者数
(令和元年～5年 住宅火災)



たばこ火災の発生状況別死者数
(令和元年～5年 住宅火災)

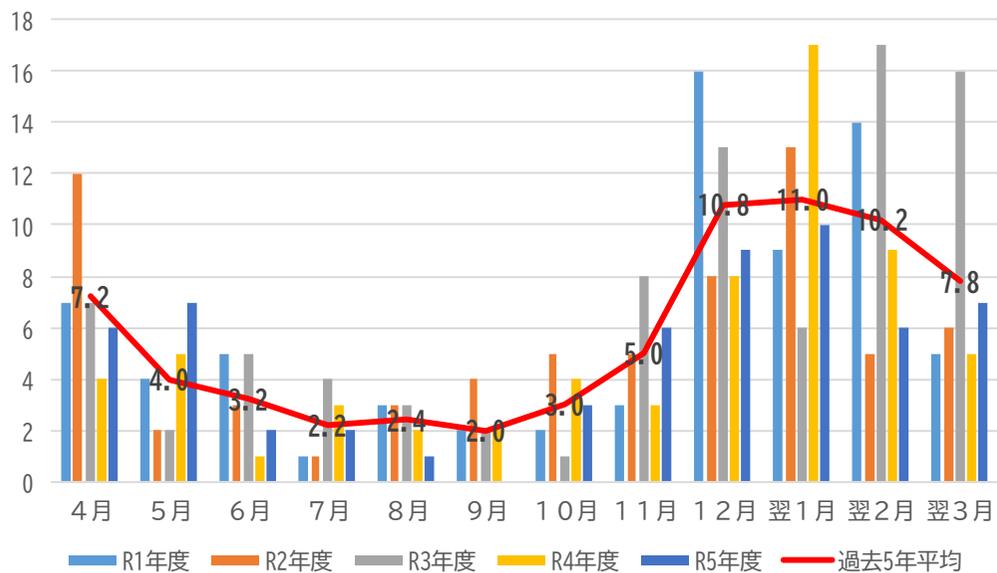


たばこ火災の着火物別死者数
(令和元年～5年 住宅火災)

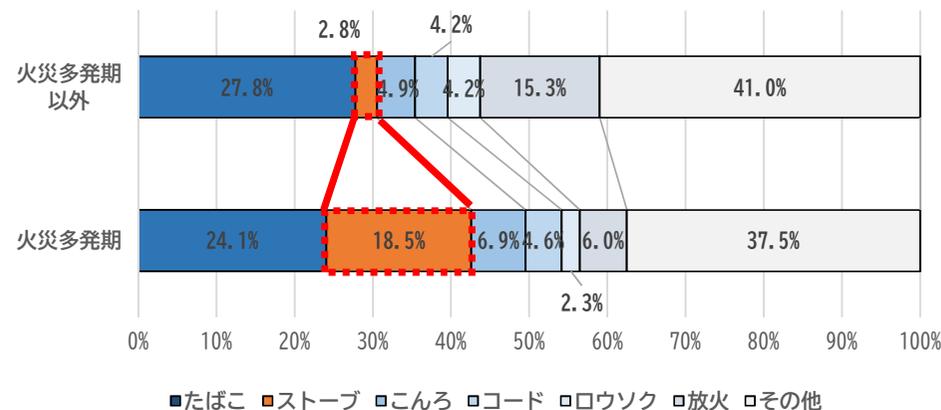


- ・ 死者が発生した住宅火災の 1 / 4 は、たばこが出火原因
- ・ たばこ火災により亡くなった人の約 6 割は、高齢者である
- ・ 死者が発生したたばこ火災の約 7 割は、火源の落下による
- ・ 死者が発生したたばこ火災の約 4 割は、布団類に着火している

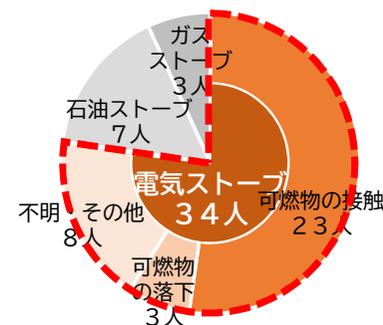
過去5年度住宅火災による死者発生状況（防災安全課調べ）



住宅火災による出火原因別の死者発生状況（過去5年）



ストーブによる住宅火災の死者数と出火の経過（過去5年）



- ・住宅火災による死者の約6割が火災多発期に発生している。
- ・火災多発期は、ストーブ火災による死者が急増する。
- ・ストーブ火災による死者の約8割が電気ストーブによるものである。
- ・ストーブ周りに可燃物を置かない、干さない、就寝時は電源を切ることが重要

別添え3 住宅火災を防ぐポイント

～たばこ火災を防ぐポイント～

- **寝たばこ**は絶対にしない。
- **飲酒**しながら喫煙し、**うたた寝**をしないようにする。
- 吸殻を灰皿やごみ箱にためないようにする。
- 吸殻を捨てるときは、必ず**水をかけ完全に消火**する。
- 火種を落とさないよう**安全な場所**で喫煙する。



注意すれば防げる火災!

～こんろ火災を防ぐポイント～

- 調理中にこんろから**離れない**。
- こんろの周りに**燃えやすいものを置かない**。
- **防災品**のエプロンやアームカバーを使用する。
- 火が鍋底からはみ出さないように**調節**する。
- **安全機能付きのこんろ***を使用する。



調理中は絶対に離れない!

* 現在製造されている家庭用ガスこんろは全て全口に調理油過熱防止装置、立ち消え安全装置、こんろ・グリル消し忘れ消火機能を有するSiセンサーこんろです。

～ストーブ火災を防ぐポイント～

- 周囲に**燃えやすいものを置かない**。
- **外出時や就寝時は必ず消す**。
- **給油は必ず消してから行う**。
- ストーブの上や近くで**洗濯物を乾かさない**。

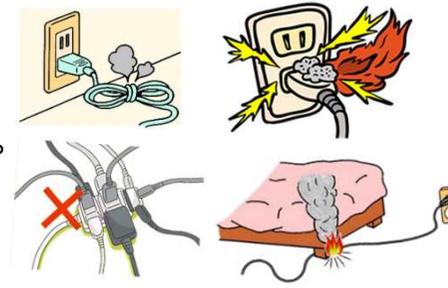


就寝中の布団の接触も多く発生しています!

ストーブ付近に燃えやすいものやエアゾール缶等は置かない!

～電気コード等火災を防ぐポイント～

- 使っていない**プラグは抜いておく**。
- プラグ、コンセントは**定期的に掃除**する。
- 家具などの下敷き、**折れ曲がりに注意**する。
- タップは**決められた容量内**で使用する。
- 束ねて使用しない。



・死者が発生した住宅火災の主な出火原因「たばこ」「ストーブ」「こんろ」「コード」の出火防止対策

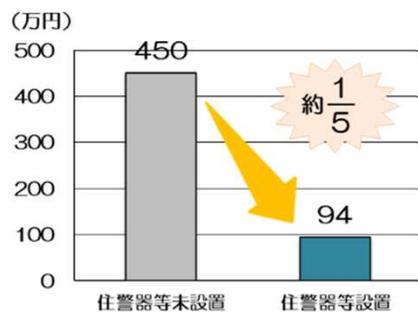
別添え4 住宅用火災警報器

住宅用火災警報器等※による住宅火災の被害軽減効果について

※自動火災報知設備等を含む



住警器等設置有無別の火災1件あたりの平均焼損床面積の比較



住警器等設置有無別の火災1件あたりの平均損害額の比較



住警器等設置有無別の火災100件あたりの死者発生火災件数の比較

・住宅用火災警報器が設置されている住宅の方が、火災1件あたりの平均焼損床面積、平均損害額、火災100件あたりの死者発生火災件数などの被害が大きく軽減されている。

住宅用火災警報器の維持管理について



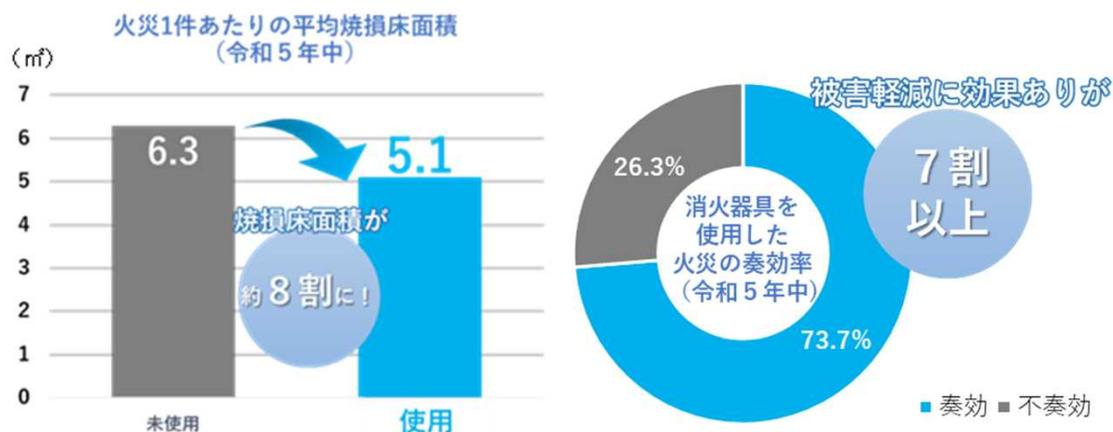
- ・少なくとも半年に1回は、点検をしましょう
- ・古くなった住警器は電池切れや電子部品の劣化により火災を感知しない恐れがあるため、本体設置から10年を目安に交換しましょう。



ティモンディの「住宅火災への備えやればできる！」30秒動画

消火器

消火器具による住宅火災の被害軽減効果について



消火器具が設置が法令で義務付けられている防火対象物の火災において、

- ・ 消火器具を使用した場合は、使用していない場合に比べて焼損床面積が約8割に減少している。
- ・ 消火器具を使用した火災の奏効率は7割を超えている。

住宅においても、消火器、住宅用消火器、エアゾール式簡易消火具を備え、初期消火体制を確保することが重要

消火器等の種類とメリットについて



(左から、消火器、住宅用消火器、エアゾール式簡易消火具)

- ・ 消火器は、水で消せないてんぷら油火災にも有効です。
- ・ 持ち運びしやすく、使い方も簡単です。



「持っていますか？マイ消火器」30秒動画